



筑波大

筑波大学の中井直正教授らの研究チームは南極に天文台を造る計画をまとめた。南極の内陸にフランス

南極に天文台計画

銀河の赤ちゃん観測へ

とイタリアが共同で造った基地に電波望遠鏡を設置し、宇宙の始まりにあったとされるビッグバン直後に生まれた銀河の赤ちゃんを探す。順調にいけば、2024年から観測を始め、銀河誕生の謎解明につなげる。

宇宙にある銀河の7、8割は暗くて光学望遠鏡では見えない。研究チームは、直径10分の1のアンテナで遠くの銀河が放つテラヘルツ波と呼ぶ電磁波をとらえ、宇宙の果てにある銀河を見つける計画だ。

テラヘルツ波の観測は水蒸気が問題になる。水蒸気量が少なく、快晴の日が多い南極内陸部のコンコルディア基地に写真に望遠鏡を設置するという。フランスなどと協力して望遠鏡の資材を基地まで運び、23年に組み立てる。

予算は総額二十数億円を見込み、文部科学省と調整している。費用の一部を寄付でまかない、寄付した人の名前を刻んだプレートも望遠鏡の架台に取り付けることも検討する。